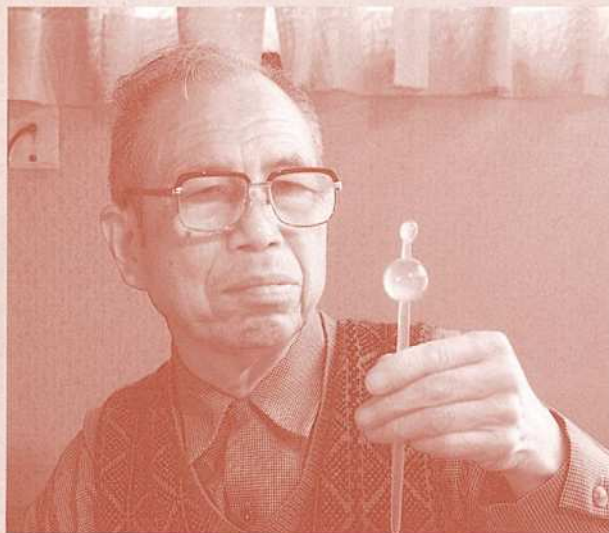


伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



べっ甲

もり た まさ し
森 田 正 司

(平成3年度作品)

16mm映画・ビデオ
カラー・20分

プロフィール

住所、荒川区東尾久1-16-10。

大正5年(1916)東京都生まれ。

平成2年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

大正15年、4代目の父親、安五郎氏について修業。

先祖代々200年余の江戸派べっ甲工芸技術を受継ぐ5代目。後継者の長男・孝雄氏とともに、眼鏡フレームほか、ペンダント、イヤリング、ブローチ、ブレスレット、ネクタイピン、カフスボタン、櫛、かんざしくしなど、高い気品と格調あふれた作品を生み出している。

原料となるべっ甲は、カリブ海などに棲む海亀の一種であるタイマイ亀の甲羅である。他の海亀の甲羅は、ふつう、べっ甲とはいわない。

今日、動物保護の立場から原料入手が困難となっている。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

用具・工具

糸のこ、突っ切り、ガンギヤスリ、小刀、ネタバ、こて、火箸、輪金、打ちこみ、水桶、当たり台、柳のつぎ板、木綿糸、サンドペーパー、トクサ、ムクの葉、鹿の角を焼いてつくった粉、かなばん金板、プレス機など。



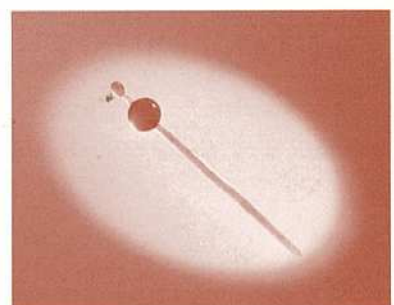
工程——「玉かんざし」の場合——

(材料) べっ甲細工は、タイマイ(海亀の一種)の甲羅を材料とする。

甲羅の部分によって「白べっ甲」「とろ甲」「ばら甲」などの種類にわけられる。

(工 程)

- ① 当たり台で「玉かんざし」の玉の部分の形取りをして、糸のこで切る。玉の原形は、12枚を張りあわせる。
- ② ガンギヤスリで平らにし、サンドペーパーをかけ、トクサで滑らかにする。
- ③ 木綿糸を巻き、積み重ねた玉を柳のつぎ板にのせて、プレスする。
- ④ 突っ切りで甲羅を切り、足の部分をつくる。
- ⑤ 熱したこてで玉と足を仮り付けする。
- ⑥ 輪金を打ち込み、固定する。
- ⑦ 玉の部分を積み上げ、糸を巻き、プレスする工程を繰り返して、丸い玉にする。
- ⑧ 耳かきの部分を曲げる。
- ⑨ 張りくるめ。6枚のべっ甲で玉全体を張りくるめていく。
- ⑩ 張り終わった玉を、ヤスリがけする。
- ⑪ 足や耳かきの部分をヤスリがけする。
- ⑫ ムクの葉で磨き、さらに鹿の角を焼いてつくった粉で磨きあげて仕上げる。



直径約3センチの玉かんざし

利用される方は ☎ **3891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。